

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1291200259		
法人名	株ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	松戸グループホームそよ風		
所在地	千葉県松戸市馬橋530-2		
自己評価作成日	平成29年11月14日	評価結果市町村受理日	平成30年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成29年12月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎月の全体会議での職員研修の充実を図っておりサービスの質向上を図っております。医療機関や市町村担当者とも日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組み、ご利用者様の身体的状況等を積極的に伝え、協力と信頼関係を築くように取り組んでおります。運営推進会議ではご利用者様、御家族様にも遠慮なく発言をできる環境を築いております。問題や課題、要望においても運営推進会議議事録に残し報告も行っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

JR常磐線及び流山電鉄の馬橋駅から徒歩10分ほどの閑静な住宅街に、グループホーム専用にて建てられた木造2階建ての施設で、駐車場も広く、訪問するにも買い物に行くにも便利です。自立歩行が出来ず、自宅ではほとんど寝たきり状態になっていた人が、入居後の介護によって介助を受けながらもトイレまで歩いて行けるようになり、家族も驚いた等の改善事例があり、入浴は週2回ではなく3回を基本とし、朝9時から夕方5時まで可能で、浴槽の湯も都度入れ替え、足浴も行う等、利用者に寄り添った介護に努めています。訪問医及び訪問看護師との連携により、希望すればホームでの看取りを行っており、今年も2人の看取りを行っています。最後まで安心して過ごせるホームです。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体会議で理念の共有確認を実施しております。	法人の運営理念とは別に、地域密着型サービスに異議を踏まえた立派な理念を掲げています。しかし全職員で十分に共有されているとまでは言えません。	折角の理念です。皆で共有し実践に努められるような何らかの方策を講じることが望めます。覚えやすいものに作り替えることも一法です。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流が出来る様に職員は考え行動しております。	町内会の敬老会に参加したり、近隣の介護施設と互いの運営推進会議に出席し合っています。オレンジ協力委員1名が週に2回歌ったり麻雀、碁等のゲームの相手をしにやって来てくれます。近所の米屋さんも運営推進会議に参加してくれる等、地域との交流が進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ不十分であると感じております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では取り組み状況等について報告や話し合いを行いそこでの意見をサービス向上に活かしております。参加されなかったご家族様にも議事録内容を送付しております。	会議は2か月に1度定期的に、市の担当、地域包括支援センター、民生委員、近所の人、近隣の施設の職員に出席して貰って開催し、現況報告、事故報告、外部評価結果、グループホームの在り方等について話し合い、結果を運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くように取り組んでいます。運営推進会議にも参加。行政問い合わせの内容においても全て記録に残しております。	市の担当は年に一度は運営委推進会議に出席してくれるので、地域包括支援センターと併せて、実情を理解してもらっており、気軽に相談できる協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行いません。毎月の全体会議、研修も実施しております。	内部に5人からなる身体拘束排除委員会を設け、職員には年間計画に基づき研修を行っています。日中は玄関の施錠はしていません。ただ、禁止の対象となる具体的な項目をすべての職員が正しく理解しているとは言えません。	それと知らずに身体拘束を行ってしまっているということの無いように、禁止の対象である11項目について全員が正しく理解していることが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだまだ不十分であると感じております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に入居前の見学や事前に十分な説明を行い契約時にも理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者や家族等が意見、要望をはっきりと発言出来る環境をつくり、内容においても議事録を作成して報告しております。	利用者については、市から介護相談員が毎月来て話を聞いてくれています。家族については、面会に来た時、運営推進会議時、電話連絡時等に話を聞き、例えば、風呂場が殺風景との意見に従い、富士山等の写真を飾る等運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員面談や毎月の全体会議時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させております。	毎月の全体会議や毎日の申し送りの時に、自由に意見を交換しています。提言されたことは全てすぐに解決できるものではありませんが、使用する食器やイベントなどで簡単なことは直ちに対処しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な全職員面談を実施して職場環境・条件の整備向上に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全体会議時に職員研修の実施他、社内での研修にも積極的に参加できる機会も設け成長のサポートを実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所開催の運営推進会議、研修等に出席して同業者と交流する機会を作り相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人からの電話連絡、手紙の発送、面会、地域での自治会館での催し物(敬老会等)への参加等関係が途切れないよう、支援に努めています。	家族の面会は、週1回～月1回が多いようです。入所前からの友人との関係継続に力を入れており、友人と外食に出かける人もあります。家族が美容室に連れて行ったり病院からの帰りに外食を楽しむ人もあり、外部とのつながりを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間が互いに支え合える環境作り(配席の考慮や職員が間に入った声かけ)に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了後もこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを尊重して、それぞれの生活リズムに合わせてサービス提供している。	入居時のアセスメントや日常の会話や行動・表情から思いや意向の把握に努めています。困難な場合は家族からの聞き取りで情報を集めます。例えば、利用者のパンやラーメンを食べたいとの希望に個別に対応し、入浴の嫌がる人に足浴で対応する等しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を尊重したそれぞれの居室環境でサービス提供に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成しております。	本人や家族の要望や主治医の訪問診療時の情報や看護師の看護記録、職員の申し送りノートによる情報に加え、カンファレンスで協議して介護計画を作成しています。月1回モニタリングを行い、半年ごと及び特別な変化があった時に見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを尊重した柔軟なサービス提供に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しております。	従来からかかっていた精神科医に4か月に1度受診している人が一人いますが、全員が内科医の訪問診療を家族の希望によって月1回か2回受けています。その他の科については主治医の紹介等により、家族または職員が対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は情報や気づきを訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでおります。	入居時に家族に「重度化した場合の対応看取りに関する指針」を説明し同意を得ています。終末期になると主治医・家族・職員で話し合い方針を共有します。年に1度管理者が職員にターミナル研修を行い、今年は2名の看取りを行いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員ではないが、定期的に職員研修他、応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、全ての職員ではないが身につけており、地域との協力体制を築いております。	避難訓練及び防火訓練を年2回夜間をも想定して行っています。スプリンクラー等法令で要求されている設備が整っており、非常口も簡単に開閉できるようになっています。大規模災害に備え、備蓄品の内容・量を徐々に充実させてきています。	出来れば消防署立ち合いの訓練を行う事、および、夜間の火災発生でもパニックに落ちることなく、適切な対応ができるようになっています。様々なケースについて優先順位を頭に叩き込んでおく事が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしております。定期的に研修も実施しております。	職員同士で或る利用者について話す時に、誰のことなのか他の利用者には分からないように、名前ではなく部屋番号で話す等プライバシーに配慮しています。管理者は申し送りノートや口頭で始終職員を指導している他、年2回接遇・マナー研修を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように職員はお声かけさせて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご家族との外出予定や天気の良い日には散歩等お客様の希望ニーズを伺い職員は出来る限りの支援をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族様の希望に沿い出来る限りのサービス提供に努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事ではないが利用者と職員と一緒に配膳の準備や食事片付けをしております。	業者から週間の献立表が届き、食材が毎日配送されてきます。お米は近所のお米屋さんから届けられます。利用者は下ごしらえや配膳・下膳・テーブル拭き等出来る事を手伝っています。出前のすし屋ラーメンを取ったり外食に行く等食事を楽しめるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとり記録に残し職員間で申し送りをを行い支援をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア又はお声かけをしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をしっかりと残し、排泄間隔を職員は共有して排泄の自立にむけた支援を行っております。	排泄表によって排泄パターンを把握しトイレへの誘導を行っています。24時間おむつを使用している人が1名、布パンツの人が6～7名で、リハビリパンツから布パンツに改善した高齢の人が1人あり、自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状況の申し送りを職員間で共有して飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中9:00頃～17:00頃の間で入浴希望を毎日とっております。出来る限り個々の希望にそった支援をしています。	基本は週3回の入浴で、入浴時間はかなり自由で、拒否する人、困難な人にはタイミングを見ながら対応しています。お湯は一人ひとり入れ替え、好みの入浴剤を入れたりして満足度を高めるようにしています。毎日リビングで足浴を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や休息時間は一人ひとりの生活習慣ペースを尊重しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでの楽しみごとや散歩での気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域での敬老会等催し物、紅葉散策にも職員は付添い介助を行い積極的に外出の支援しております。	天気の良い日には近くの公園まで散歩に行き、わざわざ買い物の用事を作り、利用者と一緒に近くのコンビニまで牛乳1本買いに出かけることもあります。車椅子の人でも個々に対応します。また、地域の敬老会に出かけたり、フードコートでの催し物や買い物に出かけます。2か月に1回外食を兼ねた外出、花見会等に系列のデイサービスの車を借りて出かけます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や散髪・買物外出に応じて、お金を所持したり使えるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では季節感のある装飾や掲示を採り入れて、季節感があり、皆様一人ひとりが居心地よく過ごせるよう努めております。	5年前にグループホーム専用建てられた建物なので、いろいろな設備が整い、清潔で明るく、階段・トイレ・廊下・居間兼食堂等の共用設備はゆったりした造りになっています。ホームでは、クリスマスの飾りつけをしたり、対面式の調理場での臭いや音など、季節感、生活感が出るよう十分配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前の椅子やソファ、テーブルの配席検討や移動も行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたベッド、カーペットや仏壇の設置等、本人が居心地よく過ごせるよう努めております。	居室はかなり広くクローゼットが備え付けです。ベッドは費用施設負担でレンタルしています。畳を敷いて布団で寝ている人もあり、ソファやテレビ・筆筒・テーブル等馴染みのものを持ち込み、皆自宅での生活の延長の様にして過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名札をつけて自分の居室が分かる様に支援したり、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しております。		